

令和8年度ネットリサーチ「救急医療」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 救急搬送における選定療養費の徴収の認知度について、「知っている（または聞いたことがある）」と回答した方は52.5%となっている。
- 救急搬送における選定療養費の徴収の認知経路については、「テレビ・ラジオ」が44.0%、「医療機関や公共施設等のポスター」が27.4%となっている。
- 茨城県救急電話相談（＃7119／＃8000）の認知度について、「＃7119と＃8000のどちらも知っている（または聞いたことがある）」（18.4%）、「＃7119を知っている（または聞いたことがある）」（19.8%）、「＃8000を知っている（または聞いたことがある）」（7.7%）を合わせた【知っている】は45.9%となっている。
- AEDの使用について、「実際にAEDを使うことができる」と回答した方は、31.9%となっている。

■調査結果の概要

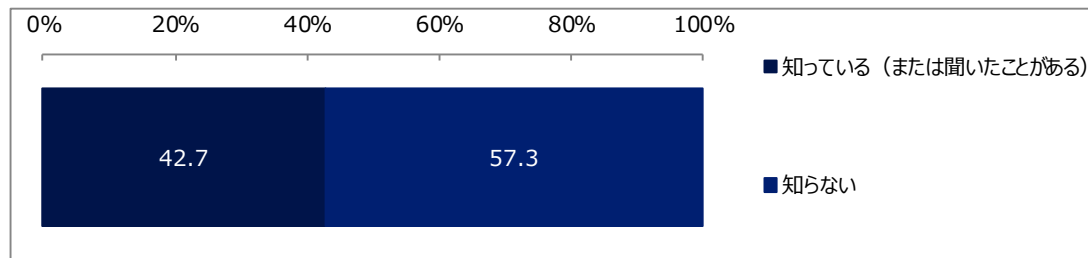
1 救急医療の現状の認知度

☆ 「知っている（または聞いたことがある）」（42.7%）、「知らない」（57.3%）となっている。

Q1.近年、茨城県では救急搬送件数は増加傾向にあり、2023年は14万件を超え、過去最多を更新しましたが、その6割以上が大病院に集中し、うち約半数は軽症患者が占め、中には緊急性の低いケースも見受けられます。

今後、救急医療現場の更なるひっ迫が進めば、真に救急医療を必要とする方へ医療を提供できなくなる事態も懸念されます。あなたは、このような茨城県の救急医療の現状を知っていましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
知っている（または聞いたことがある）	42.7	427
知らない	57.3	573



（参考）

茨城県の救急医療の現状については、以下のURLからご覧ください。

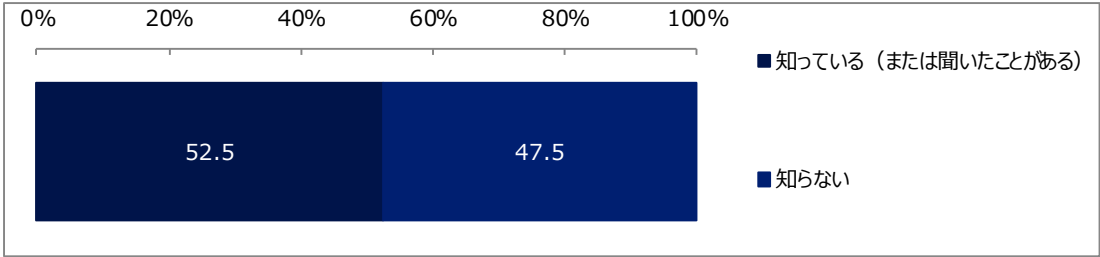
茨城県HP：https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/iryo/isei/sentei_ryoyohi.html#genjyo

2 選定療養費の徴収の認知度

☆ 「知っている（または聞いたことがある）」が52.5%となっている。

茨城県では、2024年12月から、救急車要請時の緊急性が認められない場合は、対象の大病院において選定療養費を徴収しております。
Q2.あなたは、救急搬送における選定療養費の徴収について知っていましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
知っている（または聞いたことがある）	52.5	525
知らない	47.5	475



(※) 選定療養費とは

かかりつけ医等からの紹介状を持たずに大病院を受診する場合に、病院が患者から徴収する費用のことです。

従来、救急車で搬送された患者については、例外的に「選定療養費」徴収の対象外となっていましたが、2024 年 12 月から、「救急車要請時の緊急性が認められない」場合は、徴収対象としております。

(参考)

○対象病院や料金、緊急性の目安等については、以下の URL からご覧ください。

茨城県 HP：

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/iryo/isei/sentei_ryoyohi.html#sentei_ryoyohi

○救急車要請時の緊急性が認められる場合は、選定療養費は徴収されませんので、緊急の場合は、これまで通りためらわずに救急車を要請してください。

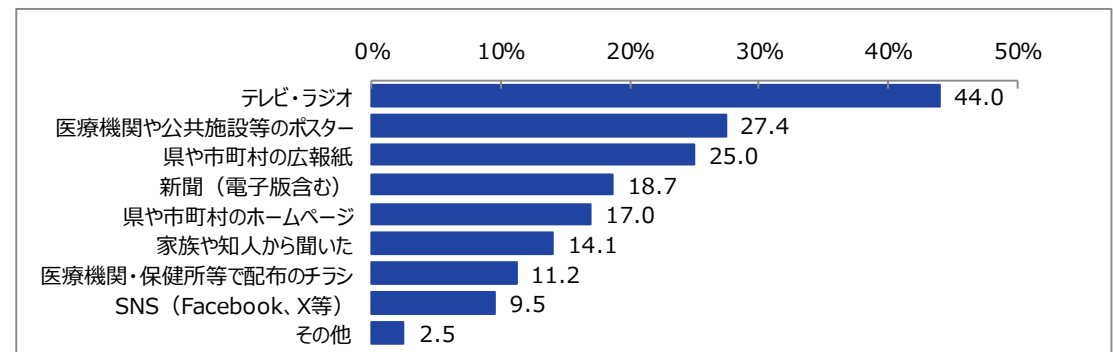
3 救急搬送における選定療養費の認知経路

☆ 「テレビ・ラジオ」が44.0%で最も高く、「医療機関や公共施設等のポスター」が27.4%と続く。

(Q2で「知っている(または聞いたことがある)」を選ばれた方へ)

Q3.あなたは、「救急搬送における選定療養費の徴収」を何で知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	525
テレビ・ラジオ	44.0	231
医療機関や公共施設等のポスター	27.4	144
県や市町村の広報紙	25.0	131
新聞(電子版含む)	18.7	98
県や市町村のホームページ	17.0	89
家族や知人から聞いた	14.1	74
医療機関・保健所等で配布のチラシ	11.2	59
SNS(Facebook、X等)	9.5	50
その他	2.5	13

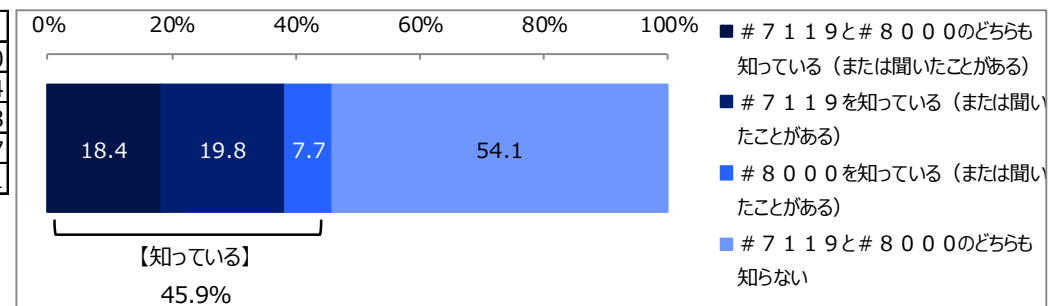


4 茨城県救急電話相談(＃7119／＃8000)の認知度

☆ 「＃7119と＃8000のどちらも知っている(または聞いたことがある)」(18.4%)、「＃7119を知っている(または聞いたことがある)」(19.8%)、「＃8000を知っている(または聞いたことがある)」(7.7%)を合わせた【知っている】は45.9%となっている。

Q4.あなたは、「茨城県救急電話相談(＃7119／＃8000)」という、電話で「救急受診できる病院・診療所」や「今すぐに受診すべきか救急車を呼ぶべきか」などを相談できる窓口があることを知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
＃7119と＃8000のどちらも知っている(または聞いたことがある)	18.4	184
＃7119を知っている(または聞いたことがある)	19.8	198
＃8000を知っている(または聞いたことがある)	7.7	77
＃7119と＃8000のどちらも知らない	54.1	541



(参考)

「茨城県おとな救急電話相談＃7119」「茨城県子ども救急電話相談＃8000」は、急な病気やケガで救急車を呼ぶべきか、すぐに医療機関を受診した方が良いのかといった判断に迷った際に、医師や看護師等の専門家から電話でアドバイスを受けることができます(24時間365日)。

茨城県救急電話相談について詳しくは、以下のURLからご覧ください。

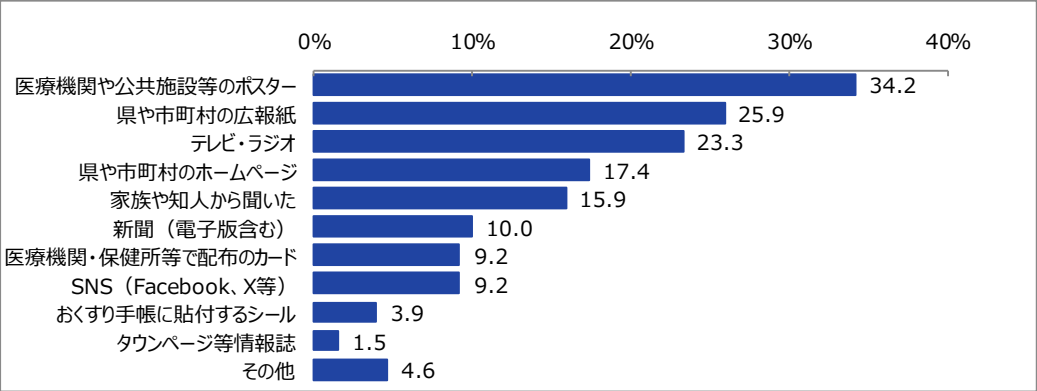
茨城県HP：<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/kenmin/life/hoken/isei/01/isei-001.html>

5 茨城県救急電話相談の認知経路

☆ 「医療機関や公共施設等のポスター」が34.2%で最も高く、「県や市町村の広報紙」が25.9%と続く。

（Q4で「#7119と#8000のどちらも知っている（または聞いたことがある）」「#7119を知っている（または聞いたことがある）」「#8000を知っている（または聞いたことがある）」を選択された方へ）
Q5.あなたは、「茨城県救急電話相談」を何で知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	459
医療機関や公共施設等のポスター	34.2	157
県や市町村の広報紙	25.9	119
テレビ・ラジオ	23.3	107
県や市町村のホームページ	17.4	80
家族や知人から聞いた	15.9	73
新聞（電子版含む）	10.0	46
医療機関・保健所等で配布のカード	9.2	42
SNS（Facebook、X等）	9.2	42
おくすり手帳に貼付するシール	3.9	18
タウンページ等情報誌	1.5	7
その他	4.6	21

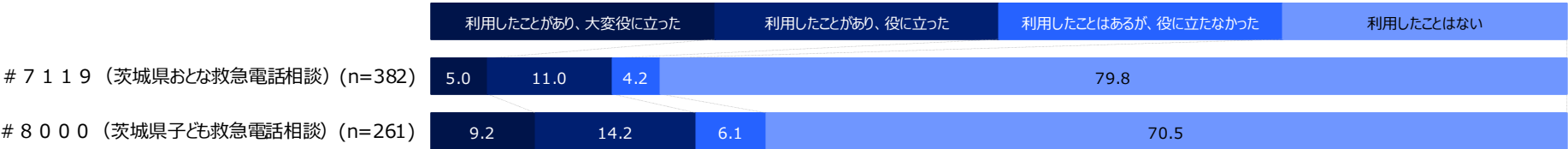


6 茨城県救急電話相談の利用状況

☆ 「#7119（茨城県おとな救急電話相談）」については、「利用したことがあり、大変役に立った」(5.0%)、「利用したことがあり、役に立った」(11.0%)、「利用したことはあるが、役に立たなかった」(4.2%) などとなっている。

☆ 「#8000（茨城県子ども救急電話相談）」については、「利用したことがあり、大変役に立った」(9.2%)、「利用したことがあり、役に立った」(14.2%)、「利用したことはあるが、役に立たなかった」(6.1%) などとなっている。

Q6.あなたは、茨城県救急電話相談を利用したことがありますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	n	利用したことがあり、 大変役に立った	利用したことがあり、 役に立った	利用したことはあるが、 役に立たなかった	利用したことはない
#7119（茨城県おとな救急電話相談）	100.0 382	5.0 19	11.0 42	4.2 16	79.8 305
#8000（茨城県子ども救急電話相談）	100.0 261	9.2 24	14.2 37	6.1 16	70.5 184

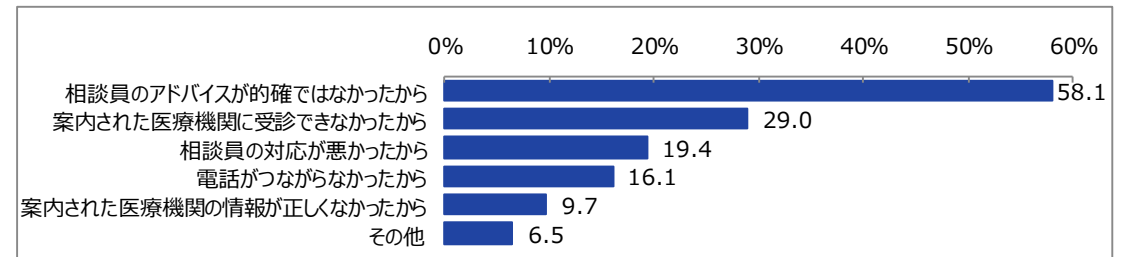
7 茨城県救急電話相談が役に立たなかった理由

☆ 「相談員のアドバイスが的確ではなかったから」が 58.1%で最も高く、「案内された医療機関に受診できなかったから」が 29.0%、「相談員の対応が悪かったから」が 19.4%と続く。

(Q6で「#7119 (茨城県おとな救急電話相談)」又は「#8000 (茨城県子ども救急電話相談)」を「利用したことはあるが、役に立たなかった」と回答した方へ)

Q7.「茨城県救急電話相談」が役に立たなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	31
相談員のアドバイスが的確ではなかったから	58.1	18
案内された医療機関に受診できなかったから	29.0	9
相談員の対応が悪かったから	19.4	6
電話が繋がらなかったから	16.1	5
案内された医療機関の情報が正しくなかったから	9.7	3
その他	6.5	2



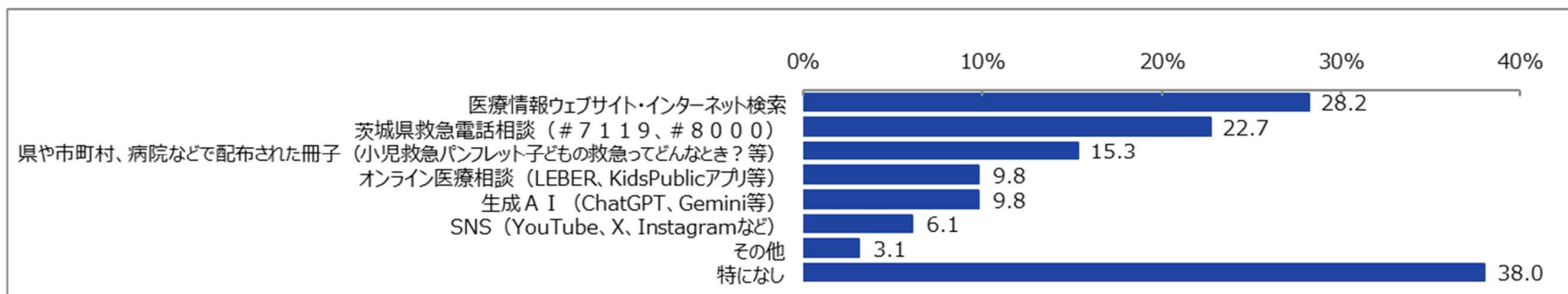
8 相談ツールの活用

☆ 「医療情報ウェブサイト・インターネット検索」が 28.2%で最も高く、「茨城県救急電話相談 (#7119、#8000)」が 22.7%、「県や市町村、病院などで配布された冊子 (小児救急パンフレット子どもの救急ってどんなとき?等)」が 15.3%と続く。

(家族構成で「一番下のお子さんが小学校入学前の子どもの親」「一番下のお子さんが小学生の子どもの親」「一番下のお子さんが中学生の子どもの親」を選択した方へ)

Q8.お子様の急な体調不良や怪我などで病院受診を検討する際、どのような相談ツールを活用されていますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	163
医療情報ウェブサイト・インターネット検索	28.2	46
茨城県救急電話相談 (#7119、#8000)	22.7	37
県や市町村、病院などで配布された冊子 (小児救急パンフレット子どもの救急ってどんなとき?等)	15.3	25
オンライン医療相談 (LEBER、KidsPublicアプリ等)	9.8	16
生成AI (ChatGPT、Gemini等)	9.8	16
SNS (YouTube、X、Instagramなど)	6.1	10
その他	3.1	5
特になし	38.0	62

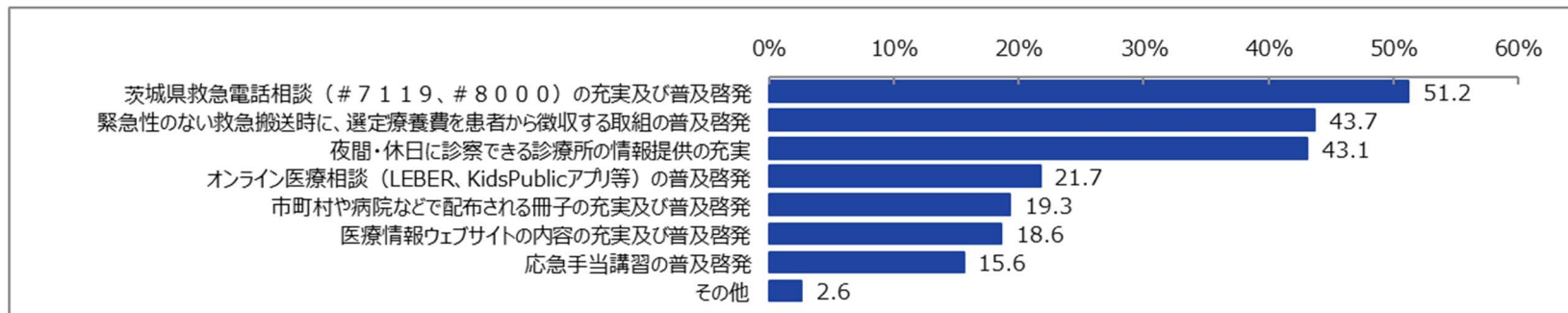


9 救急車の適正利用に向けた仕組み

- ☆ 「救急電話相談（＃７１１９、＃８０００）の充実及び普及啓発」が51.2%で最も高く、「緊急性のない救急搬送時に、選定療養費を患者から徴収する取組の普及啓発」が43.7%と続く。

Q9.あなたは、救急車の適正利用（不必要な要請を避ける等）に向けてどのような仕組みが必要であると考えますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
茨城県救急電話相談（＃７１１９、＃８０００）の充実及び普及啓発	51.2	512
緊急性のない救急搬送時に、選定療養費を患者から徴収する取組の普及啓発	43.7	437
夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実	43.1	431
オンライン医療相談（LEBER、KidsPublicアプリ等）の普及啓発	21.7	217
市町村や病院などで配布される冊子の充実及び普及啓発	19.3	193
医療情報ウェブサイトの内容の充実及び普及啓発	18.6	186
応急手当講習の普及啓発	15.6	156
その他	2.6	26



ここからは、心臓が止まった人に電気ショックを加えて心臓を動かす「AED（自動体外式除細動器）」という機器についてお尋ねします。

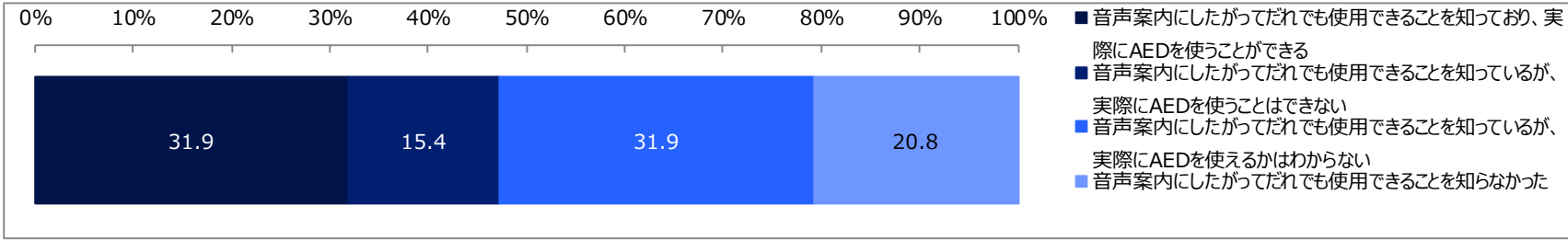


10 AED の認知度

☆ 「音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際に AED を使うことができる」が 31.9%となっている。

Q10.あなたは、AEDが、音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っていますか。
また、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、あなたはその人にAEDを使うことができますか。次の中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際にAEDを使うことができる	31.9	319
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使うことはできない	15.4	154
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使えるかはわからない	31.9	319
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知らなかった	20.8	208



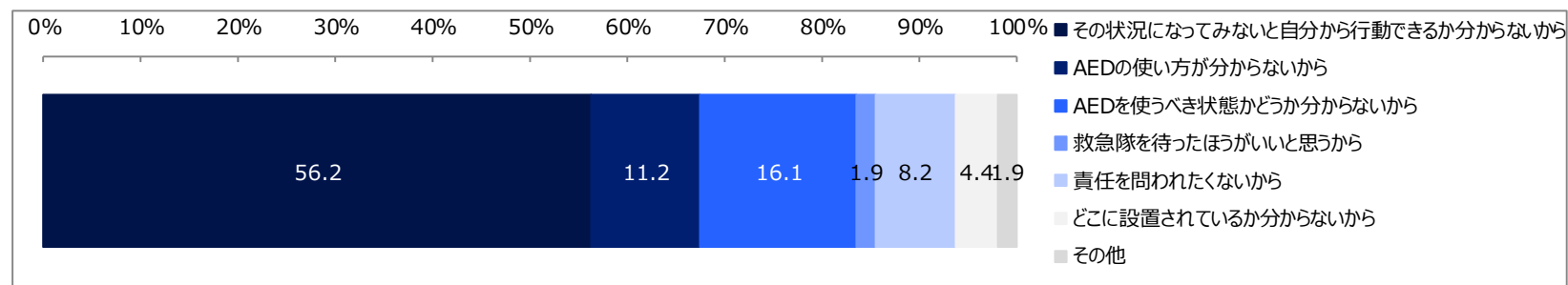
11 AED を使えない、または使えるかどうか分からない理由

☆ 「その状況になってみないと自分から行動できるか分からないから」が56.2%で最も高く、「AED を使うべき状態かどうか分からないから」が16.1%と続く。

(Q10で「実際にAEDを使うことはできない」「実際にAEDを使えるかはわからない」を選択された方へ)

Q11.AEDを使えない、またはAEDが使えるかどうか分からないと思う一番の理由は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	473
その状況になってみないと自分から行動できるか分からないから	56.2	266
AEDの使い方が分からないから	11.2	53
AEDを使うべき状態かどうか分からないから	16.1	76
救急隊を待ったほうが良いと思うから	1.9	9
責任を問われたくないから	8.2	39
どこに設置されているか分からないから	4.4	21
その他	1.9	9

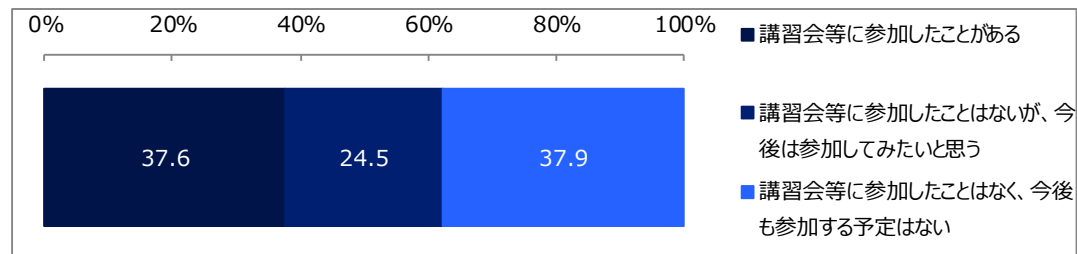


12 心肺蘇生の講習会等への参加経験

☆ 「講習会等に参加したことがある」が37.6%であった。

Q12.あなたは、これまでにAEDの使い方を含む心肺蘇生の講習会などに参加したことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
講習会等に参加したことがある	37.6	376
講習会等に参加したことはないが、今後は参加してみたいと思う	24.5	245
講習会等に参加したことはなく、今後参加する予定はない	37.9	379

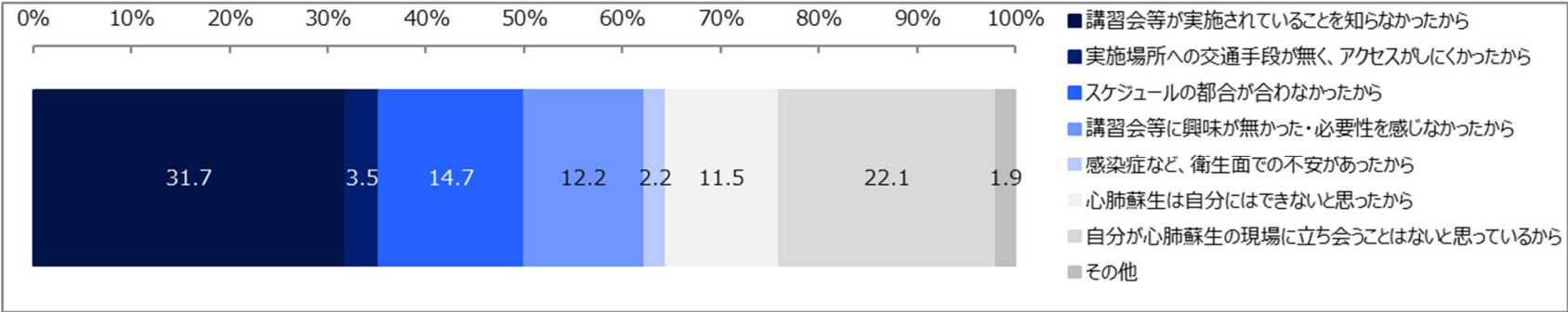


13 心肺蘇生の講習会等に参加したことがない理由

☆ 「講習会等が実施されていることを知らなかったから」が31.7%で最も高く、「自分が心肺蘇生の現場に立ち会うことはないと思っているから」が22.1%と続く。

(Q12で「講習会等に参加したことはないが、今後は参加してみたいと思う」と「講習会等に参加したことはなく、今後も参加する予定はない」を選択された方へ)
Q13.講習会等に参加したことがない一番の理由は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	624
講習会等が実施されていることを知らなかったから	31.7	198
実施場所への交通手段が無く、アクセスがしにくかったから	3.5	22
スケジュールの都合が合わなかったから	14.7	92
講習会等に興味が無かった・必要性を感じなかったから	12.2	76
感染症など、衛生面での不安があったから	2.2	14
心肺蘇生は自分にはできないと思ったから	11.5	72
自分が心肺蘇生の現場に立ち会うことはないと思っているから	22.1	138
その他	1.9	12



■調査の目的

県民に救急医療の適正利用を促すために県で実施している「茨城県おとな救急電話相談（＃ 7 1 1 9）」、「茨城県子ども救急電話相談（＃ 8 0 0 0）」、救急搬送における選定療養費の徴収の取組等について、県民の認知度や活用状況等を調査し、今後の普及啓発活動や事業改善の参考とする。

また、県民がA E Dの使い方を含む心肺蘇生の講習を受講しやすい体制づくりを推進するため、A E Dについての理解、意識を調査する。

■実施概要

- ・実 施 期 間：令和8年7月17日～7月27日
- ・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和7年10月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		109	247	93	363	188	1,000
性別	男性	56	128	50	187	100	521
	女性	53	119	43	176	88	479
年代別	18～29 歳	17	43	16	72	35	183
	30 歳代	15	41	16	61	29	162
	40 歳代	21	52	19	78	39	209
	50 歳代	28	61	22	85	45	241
	60 歳代	28	50	20	67	40	205

- 県 北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡
県 央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡
鹿 行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県 南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県 西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 全ての地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、下記のとおり超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。
「県北／男性／18～29 歳」1 サンプル不足 ⇒同地域・同性 40 代より 1 サンプル超過回収
「県央／男性／18～29 歳」4 サンプル不足 ⇒同地域・同性 40 代より 2 サンプル、50 代より 2 サンプル超過回収
「鹿行／男性／18～29 歳」8 サンプル不足 ⇒同地域・同性 40 代より 1 サンプル、50 代より 2 サンプル、60 代より 5 サンプル超過回収
「県南／男性／18～29 歳」8 サンプル不足 ⇒同地域・同性 40 代より 8 サンプル超過回収
「県西／男性／18～29 歳」9 サンプル不足 ⇒同地域・同性 40 代より 9 サンプル超過回収